

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (草木編)
- 3 童謡 背くらべ
- 4 早口ことば 雨ガッパが番ガッパ
- 5 今月の詩 螢の出盛り 北原白秋
- 6 たし算 2の段
- 7 ことわざ 壁に耳あり障子に目あり 果報は寝て待て
聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥
聞いて極楽見て地獄 窮すれば通ず
- 8 かけ算 3の段
- 9 俳句 小林一茶 松尾芭蕉 上島鬼貫
- 10 かぞえうた 2頭 4頭 6頭 (パンダ)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた なべなべそこぬけ
- 13 今月のうた 国風文化
- 14 四字熟語 一喜一憂 温故知新 言語道断
- 15 イメージトレーニング クロス君 (第2話 おおむかし)
(イメージしてみましょう)
- 16 おはなし こびとと靴屋
- 17 漢詩 春夜 雨を喜ぶ
- 18 百人一首 参議 篁 俊恵法師 持統天皇 喜撰法師
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

あま ばん
雨ガッパが番ガッパ



ほたる で ざか
螢の出盛り

きたはらはくしゅう
北原白秋

ほたる で ざか いちご
螢の出盛り 苺どき
ひる ま やま いぬ ほ た
昼間も病犬吠え立てる

ほたる で ざか いちご
螢の出盛り 苺どき
かわ べ お ば
川辺の小母さまどうしてぞ

ほたる で ざか いちご
螢の出盛り 苺どき
こ とし あそ
今年も遊びにゆきましょか

ほたる で ざか いちご
螢の出盛り 苺どき
あゆ かに ひ く
鮎つり、蟹つり、日が暮れて

ほたる で ざか いちご
螢の出盛り 苺どき
ふね かえ
いつかもお舟で帰された



ことわざ

かべ みみ しょうじ め
壁に耳あり障子に目あり

どこでだれが聞いているか、また見ているかわからない。



かほう ね ま
果報は寝て待て

幸運は人の力ではどうすることもできないから、あせ
らず気長に待とう。



き いっとき はじ き いっしょう はじ
聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥

人に聞くのが恥ずかしいからと、知らないままですごしてし
まうと、一生知らないことのほうが恥ずかしい。



き ごらくみ じ ごく
聞いて極楽見て地獄

聞くのと実際に経験するのでは、大きな違いがある
こと。



きゆう つう
窮すれば通ず

行きづまって困ると、かえって良い案が見つかるもの
である。



俳句

すずめ^この子 そこのけそこのけ 御馬^{おんま}が通^{とお}る
こばやし^{いっさ}
小林一茶



やまじ^{山路}きて なに^何やらゆかし すみれ^{ぐさ}草
まつお^ばしょう
松尾芭蕉

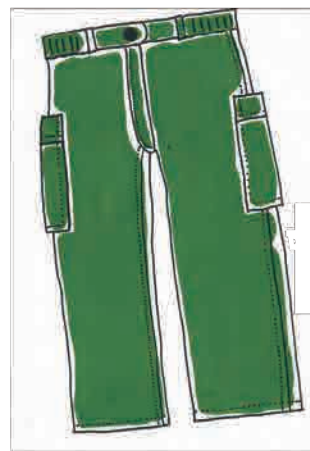


はる^{みず}の水 ところどころに 見ゆるかな
うえしま^{おにつら}
上島鬼貫



なぜなぜ

- 1 入り口は一つだけど、出口がないものなあに？
- 2 入り口一つに、出口が二つあるものなあに？
- 3 入り口一つ。出口も一つのものなあに？
- 4 入り口は一つ。でも、先へ行くと五本のわかれ道になるものなあに？



《なべなべそこぬけ》

- ① なべなべ そこぬけ そこがぬけたら



手をつなぎながら ゆらす

- ② かえりましょう



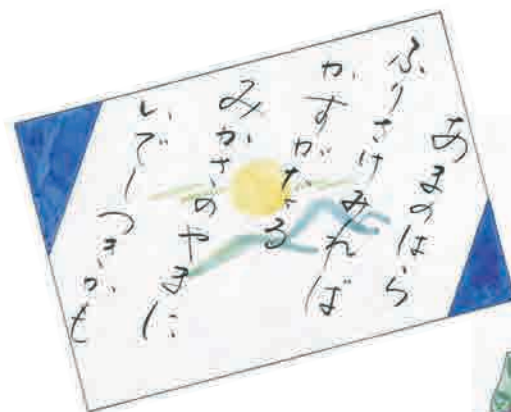
手をつないだまま
ひっくりかえる

こくふうぶんか
《国風文化》

へいあんじだい
(平安時代のなかくろに
すがわらのみちざね いけん
菅原道真の意見により けんとうし はいし
遣唐使が廃止された
あととう えいきょう
その後 唐の影響をうけることが少なくなり
にほんふうぶんか こくふうぶんか
日本風の文化 国風文化が生まれた)

はつめい わか
ひらがな発明 和歌がさかん
ゆうめい ろっかせん
有名なのは 六歌仙
ありわらのなりひら おののこまち そうじょうへんじょう
在原業平 小野小町 僧正遍昭
きせんぼうし おおとものくろぬし ぶんやのやすひで
喜撰法師 大伴黒主 文屋康秀
ごきのつらゆき こきんわかしゅう
その後 紀貫之まとめた 古今和歌集

ものがたり ずいひつにつき
物語や 随筆日記など
むらさきしきぶ げんじものがたり せいしょうなごん まくらのそうし
紫式部の源氏物語 清少納言の枕草子
たけとりものがたり いせものがたり かげろうにつき さらしなにつき
竹取物語や 伊勢物語 蜻蛉日記に 更級日記
たくさん たくさん
すぐれた作品 生まれたよ



いっき いちゆう
一喜一憂

よろこ しんぱい
喜んだり心配したりすること。



おんこ ちしん
温故知新

ふる しら あたら ちしき はっけん
古いものを調べて新しい知識を発見すること。

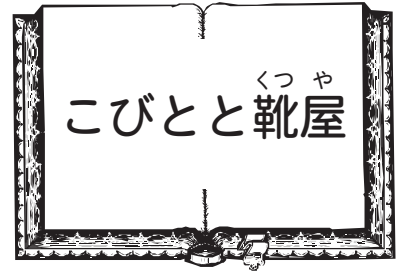


ごんご どうだん
言語道断

とんでもないこと。

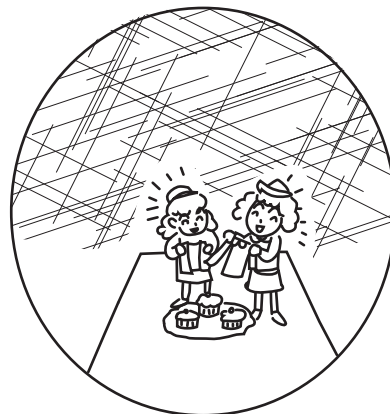
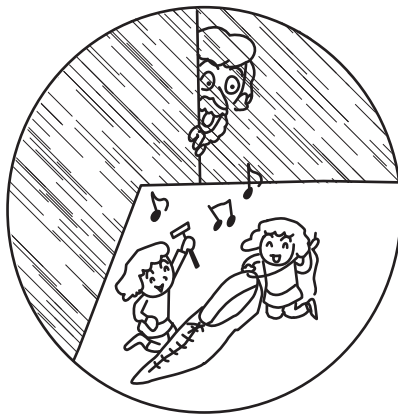


おはなし



「くつや こびとと靴屋」は、^{まず}貧しいけれど^{こころ}心のやさしいおじいさんと^{ふたり}二人の^{こびと}こびとのお話です。お話を聞いた^{あと}後で、^{しつもん}質問にこたえてみましょう。

- 1 おじいさんの^{しごと}仕事は、^{なに}何屋さんですか。
- 2 ^き切っておいた^{かわ}皮は、^{つぎ}次の日には、^ひどうなっていましたか。
- 3 ^{よる}夜の間に、^{あいだ}誰が^{たれ}出てきたのですか。
- 4 おじいさんは、^{なに}何を^なプレゼントしましたか。
- 5 ^{あと}プレゼントした^{あと}後、^{こびと}こびとたちはどうなりましたか。



春夜しゅんや

雨を喜ぶあめよろこぶ

杜と

甫ほ

好雨こうう 時節じせつ を知しり
 春はる に当あたりて 乃すなわち発はっ生せいす
 風かぜ に随したがいて 潜ひそかに夜よるに入いり
 物もの を潤うるして 細こまやかにして 声こえ無なし
 野や徑けい 雲くも 俱ともに黒くろく
 江こう船せん 火ひ 独ひとり明あきらかなり
 曉あかつきに紅こうの湿うるえる処ところを看みば
 花はなは錦きん官かん城じょうに重おもからん



百人一首

わたの原はら
八島のしま
十島かけて
人には告げよ
漕ぎ出でぬと
海人の釣舟

(参議 篁)

夜もすがら
物思ふころは
明けやらで
つれなかりけり

(俊恵法師)

春過ぎて
夏来にけらし
白妙の香具山
衣ほすてふ
天の香具山

(持統天皇)

わが庵は
都のたつみ
世をうぢ山と
人はいふなり
しかぞ住む

(喜撰法師)



俊恵法師